

## IV 委員会活動

### 1 学内委員会

#### 1) 委員会および委員一覧

	委員会	委員 (◎: 委員長、○副委員長)
(1)	大学評価委員会	◎中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (教授)・望月 好子、丹澤 洋子 (准教授)、一野谷 陽一 (事務室長)、北室 和茂 (事務室員)・寺村 絵美 <u>教育研究年報編集委員会</u> ◎中田 芳子 (教授)・望月 好子、丹澤 洋子 (准教授)、中村 李菜 (事務室員)
(2)	入試検討委員会	◎一野谷 陽一 (事務室長)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)、北室 和茂 (事務室員)
(3)	カリキュラム委員会	◎中田 芳子 (学科主任・教授)、泉 義雄 (教授)・鈴木 陽子・望月 好子、加藤 星花 (准教授)・久保 典子・丹澤 洋子、北室 和茂 (事務室員)・寺村 絵美
(4)	実習委員会	◎鈴木 陽子 (教授)、阿部 ケエ子 (准教授)・飯室 淳子・蔵本 文乃、大貫 美奈子 (講師)・木村 節子、中村 李菜 (事務室員)
(5)	学生委員会	◎望月 好子 (教授)、蔵本 文乃 (准教授)、千葉 美果 (講師)・春田 典子、樋口 貴子 (助教)、芹沢 利尚 (事務室員)
(6)	現代文明論委員会	◎小川 景子 (教授)・山口 由子、飯室 淳子 (准教授)、岩屋 裕美 (講師)・萱嶋 美子・木村 節子・春田 典子、樋口 貴子 (助教)
(7)	国際交流委員会	◎中田 芳子 (学科主任・教授)、小川 景子 (教授)、新村 直子 (准教授)・湊田 明子、萱嶋 美子 (講師)、寺村 絵美 (事務室員)・芹沢 利尚 <u>デンマーク看護研修</u> ◎小川 景子 (団長・教授)、○萱嶋 美子 (副団長・講師)、芹沢 利尚 (事務室員)
(8)	国家試験対策委員会	◎湊田 明子 (准教授)、望月 好子 (教授)、飯室 淳子 (准教授)、坂本 優子 (講師)、新村 直子 (2年生代表・准教授)・久保 典子、芹沢 利尚 (事務室員)
(9)	就職対策委員会	◎一野谷 陽一 (事務室長)、中田 芳子 (学科主任・教授)、望月 好子 (教授)、湊田 明子 (准教授)
(10)	ハラスメント防止人権委員会	委員: 非公開 相談委員: ◎鈴木 陽子 (教授)、二葉 千鶴 (講師)、一野谷 陽一 (事務室長)、大島 美知子 (図書館員)
(11)	FD・SD委員会	◎中田 芳子 (教授)、久保 典子 (准教授)、岩屋 裕美 (講師)・萱嶋 美子、高本 征子 (助教)、井上 茂夫 (事務室員)
(12)	倫理委員会	◎中田 芳子 (教授)・鈴木 陽子・望月 好子・(山口 由子)、坂部 貢 (外部委員)

(13)	研究活動の不正防止委員会	◎灰田 宗孝 (学長・教授)、中田 芳子 (学科主任・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)、新村 直子 (健康推進室室長・准教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、一野谷 陽一 (事務室長)
(14)	予算委員会	◎一野谷 陽一 (事務室長)、中田 芳子 (学科主任・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)、井上 茂夫 (事務室員)
(15)	省エネルギー推進委員会	◎灰田 宗孝 (学長・教授)、中田 芳子 (学科主任・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・教授)、新村 直子 (健康推進室室長・准教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、一野谷 陽一 (事務室長)

## 2) 各委員会活動

### (1) 大学評価委員会

#### A 位置づけ

本学における教育・研究及び組織・管理運営の質的向上を図るため、必要な事項の審議・点検・評価活動を行う。また、教育研究年報（自己点検・評価報告書）の監修、発行に関する事項を審議する。

#### B 活動目標

1. 本学の MS シートを活用した PDCA サイクル体制を作る。
2. 教育研究年報を自己点検・自己評価の一環として位置付けるための改訂を行う。

#### C 活動概要

##### 1. 活動概要

##### ①MS シートを活用した PDCA サイクル体制づくり

前期には、委員会・部署より 2015 年度の活動目標の提出を依頼し、委員会で MS シートの修正を行い、9月の教授会で教職員に MS シートを提示して説明を行った。

2015 年度の評価については、教育研究年報を一部修正して自己点検・評価報告書とすることとし、委員会・部署での記載事項に「MS シートの各委員会の項目(該当する実施計画)」についても記載を依頼し、「次年度及び次年度以降に向けて、MS シートに沿って検討し、その内容を記載してください。」とした。その後、委員会において、2015 年度の本学の評価と次年度以降の目標について検討した。

##### ②自己点検・評価の一環として位置づけた教育研究年報について

自己点検・評価報告書に関しては、認定評価対応の評価が必要ではないかという意見があり、意見交換したが、細部にわたるため評価のためのマニュアルを次年度作成することになった。

2015 年度は、教育研究年報の一部を修正し、自己点検・評価報告としていくことになった。

10 月から小委員会メンバーが査読を 2 回行い、作成した。

##### ③その他

これまで、大学評価に関しては、第 3 者評価の時の評価のための評価になっていた。その反省の基、改めて評価とは何かが委員会の中で議論になった。そこで、教職員全体を対象に講師に公益財団法人大学基準協会事務局長 工藤潤先生を講師に 2016 年 2 月 15 日に「学生に選ばれる大学づくり～内部質保証の観点から～」というテーマで研修会を実施した。全教職員が参

加し、教育の質の向上のために評価が必要であることが理解できた。その後のカリキュラム改正のための意見交換会をする動機づけにもつながった。

#### ④MS シートに沿った活動概要

教育：5. 国家試験対策の強化 2015 年度は全学規模で国家試験対策委員会を組織し、新たに規程を作成した。

管理・支援体制：6. 組織運営体制の強化 6-1PDCA サイクルの一環としての教育研究年報の検討・改善

2015 年度は、教育研究年報の記載内容に評価と次年度以降の改善が明確に表現できるよう委員会・部署に依頼した。

## 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 9 日 (木)	① 2015 年度今年度の活動目標・活動計画について ② 委員会部署への依頼について
2	6 月 25 日 (木)	① 委員会部署からの活動目標・計画と MS シートについて ② 教育研究年報の改訂について
3	7 月 30 日 (木)	① 2015 年度の活動目標と MS シートについて ② 自己点検・評価報告書としての教育研究年報の今後の方向性 ③ 防災対策備品の準備について
4	9 月 30 日 (水)	① 自己点検・評価報告書の作成について ② 国家試験支援体制について
5	12 月 2 日 (水)	① 自己点検・評価報告書の作成について ② 大学評価に関する研修会の開催について ③ 大学評価委委員会における ALO のあり方について
6	2 月 9 日 (火)	① 大学評価に関する研修会の開催について ② 委員会部署への評価の依頼について ③ 大学評価委員会規程の検討 ④ 認定評価対応の自己点検・評価報告「マニュアル」作成について
7	3 月 24 日 (木)	① 2015 年度の全体評価について ② MS シートの見直しについて ③ 2015 年度大学評価委員会のまとめ

## D 評価

2 月に実施した大学評価に関する研修会を契機に、教育の質の向上のための評価という意識に教職員の意識が少しずつ変化している。現に学生を教育しているその内容を紙面に表し、評価改善しながら、教育の質を向上させていくという PDCA サイクルの考え方を今後も教職員に浸透するよう、大学評価委委員会が取り組んでいく必要がある。その際、委員会や各部署との連携が重要である。

また、2014 年度～2015 年度に作成した MS シートで大学全体を見渡ししながら、業務をすすめていくことができるため、このようなシートの活用は効果があった。

しかし、今年度 MS シートを使用して評価したが、認証評価項目と大きく外れていること、実際に機能している委員会の活動が MS シート上に載っていないことがわかった。この原因は、中期目標が東海大学の中期目標に準じているためであり、今後は短期大学として本学の独自の中期目標

を設定して、短期大学の評価項目に沿ったシートを作成していく必要がある。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

本学の MS シートと認証評価の項目が大きく異なっている。そのため、認定評価での必要な建学の精神や学生支援体制等が抜け落ちている。また、「V. 管理・支援体制」は、様々な項目が混在している。そのため、2015 年度の MS シートの評価を基に、本学の中期目標から MS シート自体を見直す。

まず、中期目標、第一階層の 4 つの柱から違うので、認証評価の「建学の精神と教育効果」「教育課程と学生支援」「教育資源と財的資源」「リーダーシップとガバナンス」から考える必要がある。計画期間は、2016 年度～2019 年度の 4 年間とし、カリキュラム評価と改正を目標にする。今回のカリキュラム改正の意見交換でも 3 つのポリシーをまずは考えるべき、という意見が多かったので、その部分の検討を最重要課題としていく必要があると考える。

カリキュラム委員会で示した

2015 年度 評価計画の作成、全体評価

2016 年度 実習科目の評価

2017 年度 授業科目の評価、2019 年度カリキュラムの構築

2018 年度 文部科学省への届出

2019 年度 新カリキュラムでの教育開始

このスケジュールを基本に考えていく。

## (2) 入試検討委員会

### A 位置づけ

東海大学医療技術短期大学入学試験運営組織及び業務分掌規程第 10 条に基づき、入学試験に関する基本計画案を審議し、学長に答申する。

### B 活動目標

アドミッション・ポリシーを考慮した入学試験選抜方法の策定

### C 活動概要

#### ①アドミッション・ポリシーを考慮した入学試験選抜方法の策定

a. 本学の入学志願者に対するアドミッション・ポリシーについて、全国の大学や短期大学の者を比較しながら検討した。近年、入学してくる学生の状況が変化しているので、本学に入学して、看護師をめざし、国家資格を取得できる学生を選抜するために出来るだけ、具体的な内容が網羅できるように考えた。

#### b. 付属推薦候補者の選抜方法の検討

統計的にみて、付属高等学校から推薦で入学してくる学生の留年や退学者が増加している。委員会では、その要因は、指定校推薦に比較して、本学のオープンキャンパスへの参加がほとんどなく、学園基礎学力定着試験結果が優先される選抜方法を変更する必要があるという結論に達した。そのための選抜試験の方法の改善案を作成した。

#### c. 社会人入試の検討

現在の社会人の定義があいまいなため、対象者が明確になるような改善を行い、2017 年度の入試に反映できるよう答申した。結果、改正に至った。

## d. 一般入学試験について

4月の時点で話し合った時には、敢えて選抜方法を変える必要はないという結論となったが、2016年度の一般入学試験の結果を踏まえて、2018年度入学試験に向けて再度検討することになった。

## ②MSシートに沿った活動概要

管理・支援体制：1. アドミッション・ポリシーの具体化 1-1 アドミッション・ポリシーを考慮した入学試験選抜方法の策定

2015年度にこの内容を検討した。アドミッション・ポリシーに関しては、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関連について今後検討していく必要がある。

また、入学試験選抜方法については、付属推薦入試、指定校推薦、公募推薦、社会人入試、学士等入試について検討し、一定の結論が出た。次年度は、一般入試について検討していく必要がある。

：2. 入試選抜の方法 2-1 入試検討委員会の新設  
2015年度活動を開始している。

## 2. 委員会開催状況

1	5月11日(月)	① 一般入学試験における面接の導入について
2	6月13日(水)	① アドミッション・ポリシーの改定について ② 一般入学試験における面接の導入について
3	7月8日(水)	① アドミッション・ポリシーの改定について ② 付属推薦候補者の選抜方法検討について
4	8月11日(水)	① アドミッション・ポリシーの改定について ② 付属推薦候補者の選抜方法検討について ③ 指定校、公募推薦入学試験の改定について
5	8月28日(水)	① アドミッション・ポリシーの改定について ② 付属推薦候補者の選抜方法検討について ③ 指定校、公募推薦入学試験の改定について
6	10月14日(水)	① アドミッション・ポリシーの改定について ② 付属推薦候補者の選抜方法の検討について
7	12月9日(水)	① アドミッション・ポリシーの検討について ② 付属推薦候補者の選抜方法の検討について ③ 指定校、公募推薦入学試験の改定について
8	2月5日(金)	① 一般入学試験への面接試験導入について ② 社会人入学試験出願資格の検討について
9	3月2日(水)	① 一般入学試験への面接試験導入について ② 付属推薦候補者の選抜方法の検討について
10	3月23日(水)	① 2016年度入試検討委員会答申(案)について

## D 評価

2015年度入試検討委員会を新設して、すべての入試方法について検討して、社会人入学試験出願資格の改定については、2017年度入学試験より実施することが承認され、この委員会の意義は大きいと考える。3つのポリシーに基づいた教育ができるよう、在学生の状況、卒業生の状況を

把握しながら、入学試験を見直していくが必要になると考える。

2016 年度は、一般入試について検討していく。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

管理・支援体制：1-1 アドミッション・ポリシーを考慮した入学試験選抜方法の策定に関しては、「1-2 アドミッション・ポリシーを他の 2 つのポリシーとの関連から検討する」を 2016 年度に入れる。

2016 年度に「一般入試について検討」を入れる。

「1. アドミッション・ポリシーの具体化」と「2. 入試選抜の方法の検討」は、2015 年度入試検討委員会を設置したので、次年度以降は合体していく。

### (3) カリキュラム委員会

#### A 位置づけ

カリキュラム委員会規程により以下について検討する。

1. カリキュラムの作成・運営に関する事項
2. カリキュラムの総合的な評価及び修正に関する事項
3. シラバスに関する事項
4. 授業時間割の基本的な編成に関する事項

#### B 活動目標

1. 看護技術到達度記録に関する事項を検討する。  
(ガイダンス以降の指導、卒業時の集計・分析・評価等)
2. 授業アンケートの結果の活用と FD・SD 委員会との連携方法の検討
3. カリキュラム評価を実施する
  - 2015 年度 評価計画の作成、全体評価
  - 2016 年度 実習科目の評価、
  - 2017 年度 授業科目の評価、2019 年度カリキュラムの構築
  - 2018 年度 文部科学省への届出
  - 2019 年度 新カリキュラムでの教育開始

#### C 活動概要

##### 1. 活動概要

##### ①看護技術到達度記録について

2009 年度のカリキュラム改正時から看護技術到達度記録を使用して、2012 年度の卒業時に集計分析し報告書を作成した。その後は担当する委員会が活動を停止していたため集計していなかった。

2014 年度はカリキュラム委員会が活動を開始したので、12KF 生に対して、すべての実習終了後に看護技術到達度記録を回収した。その後、看護技術到達度記録小委員会を発足させて集計結果を分析した。回収率は、69.0% (87 名中 60 名提出) と低く、記入方法も適切ではなく、卒業時の技術到達の状況を分析するのは難しい状況であった。そのため、結果は学内での公表にとどめた。そして、2015 年度の集計時には、すべての実習終了後に学生を学内に集合させ、その場でカリキュラム委員が確認して回収する方法に変更することを申し合わせた。

2015 年度は、看護技術到達度記録小委員会を組織して、年間をとおして活動した。2015 年度の看護技術到達度記録の回収に当たっては、実習で見学した内容を新たに「V」という表記に変

更して、その場で学生に説明し、修正して回収した。その結果、回収率は 100%で 89 名全員分の卒業時の状況を集計することができた。集計結果を分析したところ、レベルⅡ（指導者と共に実施）にもかかわらずレベルⅠ（単独で実施）のところにチェックのある学生や、講義を受けているはずなのにチェックがない学生が見受けられた。そのため、集計結果の全体を教員に説明し、講義演習終了時にこまめに確認するよう指導することや、実習終了時の科目担当者が確認してサイン等、指導の徹底を依頼した。また、実習病院への説明には、誤解を招かないようレベル毎の集計を公表し、実習での見学が学生の動機づけになることを説明し、今後の指導の協力を依頼することにした。

なお、2016 年度には、技術水準と看護技術到達度記録の整合性の確認、本学にとっての技術到達度記録のあり方等について、実習委員会とも協力しなから検討していくことになった。

## ②授業アンケート

2014 年度にアンケートの目的、質問内容、回収方法を検討し、2015 年度前期は試行期間としてスタートした。学生のクラス委員をはじめ多くの学生の協力により、回収率は講義・演習 86.4%、実習 98.4%と高率であった。項目も精選したため、学生の意見や要望が理解しやすくなり、自由意見の記載もこれまでに比較して増加しているで、今後それぞれの科目責任者が学生の意見を反映した次年度以降の授業内容の検討に生かせるのではないかと考える。

今後、FD・SD 委員会に 2015 年度の概要のまとめを依頼し、ホームページに載せていく予定である。また、各科目責任者には結果をふまえて、授業評価をしてキャンパスメイトに掲載し、ID とパスワードを使用して、学生も内容が確認できるようにしていく予定である。

## ③カリキュラム改正について

2015 年度は、評価計画の作成及び全体評価を実施した。カリキュラム委員会の中にカリキュラム改正小委員会を組織し、今後の改正計画から検討した。2015 年度は、教職員に本学の現行カリキュラムに対する意見を広く募集するところから始めようと計画した。

6 月～7 月にかけてカリキュラムに関する意見を募集し、集計した。意見を寄せた教職員が少なかったため再度全教職員に意見を求めたいと考え、2 月に集計した内容をもとにグループに分けて、意見交換する機会を持った。その結果、教員と事務職員、図書館職員も含め本学のカリキュラムや教育の質の向上に向けた活発な意見交換となった。カリキュラム委員会でグループワーク結果をまとめ、カリキュラム改正の骨子を作成した。2016 年度は 3 つのポリシーの検討から始めることを計画している

## ④MS シートに沿った活動概要

### a. 教育：1. 主体的な学習姿勢の強化、1-3 初年次教育の検討

カリキュラム改正の意見交換の内容に「初年次教育」についての意見があり、2016 年度に詳細について検討する予定。

### b. 教育：3. 授業評価（アンケート）を軸とした PDCA サイクルの活性化

3-1 授業アンケートの結果の公開

3-2 授業アンケートの結果を活用した授業改善 計画立案

2014 年度に改善したアンケートを学生の協力を得て 2015 年度に実施し、回収率も向上した。

## 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月15日(水)	① 2015年度活動目標、活動計画 ② 2015年度の会議予定 ③ 授業アンケートについて
2	5月27日(水)	③ 看護技術到達度記録について ④ Web教材について ⑤ カリキュラム評価の方法について
3	6月17日(水)	① カリキュラム評価の検討の方向性 ② カリキュラム全般に関する意見について ③ 物品の除却について
4	7月15日(水)	① 時間割作成にあたって ② 後期ガイダンスについて ③ 実習での配慮が必要な学生について
5	9月16日(水)	① カリキュラム改正の意見と今後の方向性 ② カリキュラム全般に関する意見について
6	10月21日(水)	① 2014年度の看護技術到達度記録の結果の公表について ② カリキュラム全般に関する意見の回答について ③ 実習委員会より
7	11月18日(水)	① シラバスについて ② 授業アンケートのまとめについて ③ キャンパスナビについて ④ カリキュラムに関する意見交換会について ⑤ 看護技術学習ツール(ナーシングスキル、ヌードル、リングブック)について
8	12月16日(水)	① 前期授業アンケートのまとめについて ② キャンパスナビについて ③ カリキュラムに関する意見交換会について ④ 追実習について
9	1月20日(水)	① カリキュラムに関する意見交換会について ② キャンパスナビについて ③ 追実習について ④ 看護技術学習ツールについて ⑤ 前期授業アンケートのまとめについて
10	2月17日(水)	① カリキュラムに関する意見交換会 ② 看護技術到達度記録について ③ 身体侵襲のある看護技術について
11	3月10日(水)	① カリキュラム改正骨子(案)について ② 看護技術到達度記録の集計結果の公表について ③ 2015年度後期カリキュラム全般に関する意見について ④ 2015年度のまとめ

## D 評価

カリキュラム改正に関しては、小委員会を立ち上げて活動したことが効果的だったと考え



る。また、2月に行ったグループの意見交換では、教員のみならず事務職員や図書館職員も参加し、忌憚りな意見交換ができたことは、教職員が一丸となって、「本学の教育の質の向上をめざす」という目標に向えたことがよかったと考える。今後もこのグループ活動を取り入れていきたい。

授業アンケートに関しては、内容の改善、回収方法の改善が効果的であり、今後も学生の協力を求めていく必要がある。2016年度は、結果を授業アンケートの結果をどのよう授業改善に生かしてくのか、そのことを含めてどのように公表していくのかを丁寧に議論していく必要がある。学生にも結果が閲覧できるようにし、授業アンケートの意味を理解して、さらに協力を求めて、互いに教育の質の向上のためにPDCAサイクルを回していくことが求められる。そのためには、カリキュラム委員会とFD・SD委員会の協力が必要になる。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

a. 看護技術到達度記録については、MSシートには記載がなかった。しかし、看護師を養成するうえで、看護技術教育は重要である。教育：1. 主体的な学習姿勢の強化の達成目標に「看護技術教育の強化」を追加していく。そして、2016年度に「看護技術到達度記録及び技術水準の見直し」を入れる。2017年度には「新看護到達度記録（仮）」を新たに作成する計画を挿入する。

b. 教育：4. カリキュラム全体の評価と改善、2016年度に4-2 3つのポリシーの検討、を挿入する。

### (4) 実習委員会

#### A 位置づけ

本委員会は学長の諮問機関であり、実習委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、実習委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に回り、教授会で審議・報告される。

#### B 活動目標

看護学実習に関する事項を審議し、看護学実習が円滑に運営されるよう調整的役割を果たす。

##### 1. 実習計画検討小委員会 活動目標

①看護学実習計画の検討及び関連機関との調整を行う。

②学生の看護学実習に対する課題意識と主体的に取り組む姿勢の強化に向けた学習支援環境の検討と調整を行う。

③学生が安全で効果的な学習となるよう、看護学実習に関する基本的事項の理解を促す。

④看護学実習に関する意見を収集するとともに、課題解決に向けて取り組む。

##### 2. 安全教育検討小委員会 活動目標

①実習におけるヒヤリ・ハットの状況を把握し、分析結果を教員・臨床指導者・学生と共有し事故防止に繋げる。

②保管実習記録の取り扱いが円滑に行われるように支援する。

### 3. 実習関連課題検討小委員会 活動目標

①看護学実習が円滑に運営されるよう実習要項について検討し、必要に応じ修正する。

②看護学実習が円滑に運営されるよう実習用物品整備について決定し、管理を行う。

イ) 必要な実習物品について検討し、購入と配備を行う。

ロ) 物品管理についての方法を検討し、紛失なく物品の管理を行う。

## C 活動概要

### 1. 活動概要

実習委員会としての目標と年間活動計画を立て活動した。また今年度も、「実習計画検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」、「実習関連課題検討小委員会」の3つの小委員会を設けて取り組んだ。

#### ①実習計画検討小委員会

イ) 2016 年度以降の実習計画の立案

- ・ 2016 年度の実習計画については、2014 年度第 2 回（2015 年 2 月開催）の東海大学医学部附属病院実習協議会（以下、病院実習協議会）で承認されており、2015 年度 4 月に全体に報告し各看護学での計画を進めることができるようにした。その後、東海大学医学部附属大磯病院（以下、大磯病院）において、一般病棟の一部を回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟に変更する病棟再編成があり、成人看護学実習の学習内容に影響することから 2016 年度の前期実習については、従来大磯病院で一部実施していたものを東海大学医学部附属病院（以下、附属病院）で実施することとなった。そのため、2016 年度の実習計画の一部変更として、第 2 回（2016 年 2 月開催）病院実習協議会において報告し承認を得た。
- ・ 2017 年度以降の実習計画については、本委員会とカリキュラム委員会にて調整し第 2 回（2016 年 2 月開催）病院実習協議会において計画案を提示した。2017 年度より大磯病院に対し本学老年看護学実習の実習期間増加を依頼し、2016 年度第 1 回（2016 年 7 月開催予定）にて結論が出る予定となっている。

ロ) 2016 年度の 3 年生実習グループ編成

2016 年度の 3 年生実習グループ編成については、実習計画検討小委員会が編成案を作成したものを委員会で検討し、その後は 2015 年度 2 年生の指導教員の意見を参考にして、最終的に委員会で決定した。

ハ) 実習に関する意見の収集と対応

前期・後期において、各教員から実習に関する意見を収集し委員会において検討した。一部企画調整会議での審議を得て、問題点や意見と委員会での検討結果を一覧にし全教員に配付した。また、後期の意見については実習委員会報告会で報告した。

ニ) 各看護学実習評価について

各看護学実習において今年度の評価を活かし学生にとって効果的な実習に繋げることや関係諸施設や臨床実習指導者などと連携していくために活用する資料として、2015 年度に実施された全看護学実習の実習評価を各看護学実習科目責任者に作成・提出を依頼し一覧表とした。看護系教員に実習委員会報告会において配布し報告した。また、第 2 回病院実習協議会において、各実習の履修状況と結果の概要を報告した。

ホ) 病院実習協議会の運営

本学と東海大学健康科学部、東海大学医学部附属の 4 病院で組織される病院実習協議会の幹事として、会議の開催準備及び運営を行った。

## ②安全教育検討小委員会活動

## イ)「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析と検討

年2回(前期、年間)「ヒヤリ・ハット報告」の集計と年1回の分析を行った。ヒヤリ・ハット内容とその原因から学生の傾向や指導側の問題が見出され、委員会での検討を行うとともに、3月の報告会で現状を共有し今後の対策について検討した。

## ロ)「ヒヤリ・ハット報告」の集計と分析結果の活用

- ・全学生に対して、看護学実習ガイダンス時にヒヤリ・ハットの現状、そこから考えられる学生の傾向と対策について説明することで、安全への意識づけを図った。
- ・臨床側に対しては、発生状況や対策について実習打合せ会や各実習において説明し、学生の学習を支える指導側として実習環境調整面に役立てられるように働きかけた。

## ハ)実習記録の保管・廃棄

- ・保管実習記録の閲覧はなかった。
- ・1年生と2年生の実習記録は施錠できる所定の場所に保管され、3年生(2015年度卒業生)の3年間の実習記録は完全溶解処理の依頼をした。

## ③実習関連課題検討小委員会

## イ)実習要項総説の見直しと修正

- ・学生の「ヒヤリ・ハット」報告の流れを示した図について、学内での報告の流れで科目責任者と領域責任者の記載位置を変更した。また、学内の学科主任による学長及び健康推進室への報告と、臨床側の病棟師長による病院長及び看護部長への報告については当該者が判断し報告するため、従来実線であったものを破線に修正した。そして、実習委員会報告会における検討で、病棟師長を病棟責任者に変更した。
- ・「実習の目的・目標」、「実習カンファレンスの手引き」についても見直しを行ったが、修正はしないこととした。

## ロ)実習用物品の再整備

- ・前年度に、付属病院と大磯病院における実習用物品調査と各看護学からの希望を基に、実習用物品の再整備を行った。前期実習前に、ダブル聴診器・アネロイド血圧計・SpO<sub>2</sub>モニター・ペンライト・瞳孔計・角度計・水温計を整備した。また、付属病院では体温測定値の自動転送システムが導入され専用の体温計が使用されることになったため、後期は学生が使用する体温計を付属病院と大磯病院に再整備した。

④東海大学医学部付属八王子病院における老年看護学実習に関する受け持ち患者承諾書の検討  
2014年度より老年看護学実習の一部を東海大学医学部付属八王子病院で実施しており、実習病院の要請もあり受け持ち患者承諾書を整備した。従来整備されていた「臨地実習にあたっての受け持ち患者への説明事項(2011年版)」を基に承諾書を委員会で確認後、企画調整会議にて承認を得た。

## ⑤実習関連の学生を対象としたガイダンスおよび実習打合せ会の企画・運営

## イ)看護学実習ガイダンスの企画・運営

4月に2年生と3年生を対象とした看護学実習ガイダンスを実施し、3年生に対しては各看護学実習の責任者と日程調整を図り領域別オリエンテーションを企画・運営した。また7月には1年生を対象とした看護学実習ガイダンスを実施した。

## ロ)実習打合せ会の企画・運営

今年度実習を開始するにあたり、付属病院及び大磯病院との実習打合せ会を企画し実施した。

## ⑥実習委員会報告会の開催

2016年3月に全教員を対象とした実習委員会報告会を開催した。主な内容は『年間ヒヤリ・ハットの集計結果とその傾向と対策』、『後期における教員から出された実習に関する意見・問題点とそれらに対する検討結果』、『2016年度実習要項総説の変更点』、『2015年度各看護学実習評価』、『2016年度実習計画の一部変更』に関するものであった。それぞれの報告に対し質問や意見交換を行うことができた。

## 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月8日(水)	① 2015年度実習委員会活動目標・活動計画、役割の検討 ② 2015年度実習打合せ会(附属病院・大磯病院)の最終確認 ③ 3年生(13KF)・2年生(14KF)に対する看護学実習に関するガイダンス実施評価 ④ 実習用物品再整備に関する購入依頼物品の検討
2	5月1日(金)	① 2015年度実習委員会各小委員会の活動目標・活動計画の検討 ② 2015年度実習打合せ会の実施評価 ③ 東海大学医学部附属八王子病院における老年看護学実習に関する受け持ち患者承諾書の検討 ③ 実習用物品再整備に関する物品管理方法の検討
3	6月9日(火)	① 1年生(15KF)に対する看護学実習に関するガイダンスの内容・役割等の確認 ② 2016年度以降の実習計画の検討 a. 2016年度実習計画の確認 b. 2016年度実習計画における3年生グループ編成人数 c. 2017年度実習計画(案) ③ 実習用物品再整備に関する物品管理表の検討
4	7月15日(水)	① 1年生(15KF)に対する看護学実習に関するガイダンス実施評価 ② 2015年度前期実習に関する意見の収集方法の検討 ③ 2015年度前期「ヒヤリ・ハット報告」の集計方法の検討
5	9月3日(木)	① 2015年度前期実習に関する収集した意見の報告及び検討 ② 2015年度前期「ヒヤリ・ハット報告」集計結果の報告及び後期実に向けた課題の検討
6	10月6日(火)	① 2016年度実習要項総説の修正内容の検討 ② 2015年度前期実習に関する収集した意見についての検討
7	11月4日(水)	① 2016年度実習要項総説の修正内容の検討 ② 学生の電子カルテ操作演習についての検討
8	12月1日(火)	① 2015年度各看護学実習の評価方法についての検討 ② 2015年度後期実習に関する意見の収集方法の検討 ③ 2015年度後期「ヒヤリ・ハット報告」集計と評価方法の検討
9	1月13日(水)	① 2015年度後期実習に関する収集した意見の報告及び検討 ② 2016年度実習要項総説の修正内容の検討 ③ 2016年度3年生実習グループ編成の検討 ④ 2016年度3年生・2年生に対する看護学実習に関するガイダンスの日程確認及び内容検討

		⑤ 2016 年度 3 年生領域別(看護学別)実習オリエンテーション日程の確認
10	2 月 10 日 (水)	① 2015 年度後期実習に関する収集した意見の報告及び検討 ② 2015 年度実習用物品再整備後の運用状況の報告及び今後の課題の検討 ③ 2016 年度 3 年生実習グループ編成の決定 ④ 2016 年度 3 年生・2 年生に対する看護学実習に関するガイダンスの進め方と役割の検討 ⑤ 2016 年度 3 年生に対する領域別(看護学別)実習オリエンテーションの配布資料の検討 ⑥ 2016 年度実習打合せ会(附属病院・大磯病院)日程及び配布資料の検討 ⑦ 2015 年度後期「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果及び年度まとめ報告、今後の対策の検討 ⑧ 実習記録の回収と廃棄に関する日程と方法の検討 ⑨ 実習委員会報告会の内容及び進め方の検討
11	3 月 16 日 (水)	① 実習委員会報告会の実施評価 ② 2016 年度 3 年生・2 年生に対する看護学実習に関するガイダンスの進め方及び役割の確認 ③ 2016 年度 1 年生看護学実習に関するガイダンス日程確認及び内容の検討 ④ 2016 年度実習打合せ会(附属病院・大磯病院)日程確認及び進め方の検討 ⑤ 2015 年度 3 年生に対する手術室オリエンテーションの日程確認及び担当者の検討 ⑥ 小委員会年間活動評価と次年度に向けた課題の確認 ⑦ 実習委員会年間活動評価と次年度に向けた課題の確認

#### D 評価

毎月定期的に委員会を開催し看護学実習に関連する事項を審議するとともに、カリキュラム委員会との連携を図りながら、計画された実習を効果的に進めることができるように適宜必要な事項の企画・運営を行うことができた。委員会において検討した内容を、関係部署に報告・依頼することで、現状の中でできる最大限の学習環境整備や課題の改善に繋げることができた。

実習に関する意見収集を前期・後期に実施し、挙げた意見を基に検討し改善に向けた調整もでき、特に前年度に調整を図った教員の感染症検査は今年度より実施の運びとなり、今年度に検討した実習時における学生の健康上の情報共有による支援については健康推進室等の協力を得ることができるようになった。

今年度の課題とした実習用物品の再整備については、予算計上から購入、実習病院への物品の配備と随時進め、適切な運用ができた。

学生の電子カルテ操作演習について、現在 1 学年次の選択科目の授業内容の一部として附属病院で実施しているが、全員の履修ではないことや時間的制約のため操作演習が十分とは言えない状況である。今年度は授業時間外での実施を検討したが調整ができなかった。そのため、次年度以降に継続して調整を図る必要がある。

1 年生の実習ガイダンスを今年度までは 7 月の基礎看護学実習前に実施していたが、ガイダンスの日程調整に困難性があることや基礎看護学の実習オリエンテーションと重複する内容もある

ことから、次年度以降は4月に新1年生ガイダンスの中に組み入れ実施することとした。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

MSシートにおける重点実施事項「主体的な学習姿勢の強化」について、今年度は本委員会としても活動目標に組み入れが具体的な活動には結び付けることができなかった。次年度は、達成目標「学習ポートフォリオの導入」として学生の個々の自分自身の実習における学習内容や課題を整理しながら進めていくことを可視化できるツールの使用等の検討を進めていく必要がある。

### (5) 学生委員会

#### A 位置づけ

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている。学生と共に考え、一人一人の学生の主体性を尊重し、支援している。

#### <役割>

1. 学生が課外活動に主体的に参加し責任を持ち役割遂行できるよう、自主性を尊重した上で支援する。
  - 1) 学生会会則や学生生活に関する規則を熟知し、学生の活動が円滑に機能できるよう支援する。
  - 2) 学生の課外活動が円滑に行われるよう、相談窓口を設け、支援する。
  - 3) 学業と課外活動が両立できるよう、必要時、指導教員との連携をとる。
  - 4) 学生が課外活動を通して、リーダーシップ・メンバーシップを体験しながら、協調性・責任感・忍耐力を養う機会を支援する。
  - 5) ボランティア活動への関心を高め、積極的に参加できるように支援する。
2. 学生が社会の一員としての自覚を持ちながら行動できるよう支援する。
  - 1) ガイダンス等を活用し、社会の一員としての態度やマナーについて指導する。
  - 2) 施設の利用（ロッカー、教室、教材、コンピューター、図書等）について、事務室等と連携を取り、指導する。
  - 3) 環境に配慮し、節水・節電、ごみの分別が出来るように指導する。
  - 4) 構内全面禁煙・禁煙活動等心身の健康管理について健康推進室等との連携をとりながら指導する。
  - 5) ソーシャルメディア利用上の原則・禁止行為等について十分理解し、適切な行動がとれるように指導する。
3. 学生が安全に学生生活を送ることができるよう支援する。
  - 1) ルールを守り車両通学が出来るよう指導し、交通事故防止を意識づける。
  - 2) 災害発生時の対応が円滑に行われるよう指導する。
  - 3) 学生生活に関して学生の意見が反映される環境を調整する。
4. キャンパスハラスメントの防止の視点で、学生の人権を守れるように支援する。
  - 1) 適宜人権委員会や倫理委員会等の関係機関との連携をとり、迅速かつ適切に対応する。

#### B 活動目標

学生自らが主体的に考え行動し、看護学生らしい活動が行えるよう支援する。

- 1) 学生会活動への自主的参加者が増加する。
  - (1) 様々な行事に参加することで、自主性や楽しむことを学ぶ。
  - (2) 仲間とのつながりを作る。

- 2) 学生間・学年間の交流が図られる。
- (1) スポーツ大会を通して、エネルギーの発散ができる。
- (2) 学生間の交流を深め、共に学ぶ仲間作りができる。
- 3) 飛鷗祭では学業と連動した企画立案できる。
- (1) 学園祭の本来の目的に立ち返ることができ、他学部の学生・保護者・近隣の方々に学びの披露ができる。
- (2) 企画運営を行う中から企画力・実行力・コミュニケーション能力の向上が図れる。
- 4) 学生会各委員の役割内容を確認し、組織としての活動記録を残し、次につなげることができる。
- (1) 学生会各委員の仕事内容を明確化する。
- (2) 各委員の活動を記録し、データとして次に引き継ぎできるようにする。
- 5) ボランティア活動への関心を高め、積極的に参加できるように支援する。
- (1) 社会との連携や貢献を意識したサークル活動を活性化する。

## C 活動概要

### 1. 活動概要

学生会活動（学生総会、選挙管理委員会、飛鷗祭、学生交流会、学友会、東海大学短期大学（部）スポーツ大会、学内スポーツ交流会など）を中心に学生の活動を支援した。

日時	学生会活動内容	学生委員会の支援内容	
		学生会関係	飛鷗祭関係
2015 年			
4 月 4 日（土）	学生会オリエンテーション	*学生会組織図および学生会会則、学友会会則見直し・変更	*飛鷗祭企画運営
4 月 22 日（水）	学生交流会		5/1(火)全体会 役員選出
5 月 7 日（木）	学生会役員と学長との顔合せ	*学生総会準備・運営	5/20（水）幹部会
5 月 16 日（土）	学生総会	*三者懇談会に向けての資料作成・運営等	6/8（月）幹部会
	後援会・学生・教職員の三者懇談会	*医短スポーツ大会準備・運営	6/17（水）幹部会
6 月 6 日（土）			6/19（金）幹部会
9 月 3 日（木）	医療短大スポーツ大会 東海大学短期大学（部） スポーツ大会	*3短大スポーツ大会準備・運営	6/30（火）幹部会
			7/13（月）幹部会
11 月 1 日（日） ～ 3 日（火）	第 38 回飛鷗祭		10/9(金) 全体説明会 飛鷗祭決起集会
			*委員長と適宜情報交換を実施
2016 年			*飛鷗祭期間中は、学生委員会の担当者が運営の相談等にあたり、事故なくスムーズに実施できるように支援した。
1 月 22 日（金）	2016 年度執行委員会役員選挙	*執行委員選挙の運営	
2 月 12 日（金）	国家試験激励	*謝恩会企画・運営（3年生）	
3 月 25 日（金）	学位授与式 謝恩会	謝恩会への支援について(在校生)	

## 飛鷗祭企画運営への支援(詳細)

1. 近藤先生の講演会について
  - ・依頼文作成、配信
  - ・講演料に対する折衝(近藤先生への講演依頼、謝礼についての検討・支援)
  - ・お礼状の作成、配信
  - ・学生会執行委員会との連携に対する指導
  - ・お花の手配(学生会執行委員会に依頼)
2. 広報部会との活動
  - ・SNS 活用に関する申請書の提出支援
  - ・SNA 活用に対する学生への周知徹底方法の検討支援
  - ・パンフレット作成に対する支援(企画段階から関与)
3. 精華園とのコラボ企画に関して
  - ・7/9 17:00～飛鷗祭委員長、副委員長2名とともに精華園を訪問。
  - ・今年度の飛鷗祭の主旨説明、コラボ企画に対する打合せの場面への立ち合い。
4. 講堂企画
  - ・音響設備レンタル等に関する助言・支援(金額面での折衝)
  - ・講堂内企画の撮影禁止に伴う対策への助言
5. 模擬企画
  - 10月末に食中毒予防についての説明会を実施
6. クラス企画
  - 日々の学びの発表となるように助言
7. 会計
  - 金銭の取り扱い方法についての助言

**1) 学生会活動への自主的参加者が増加する。**

例年2年生の参加が1年生の参加に比べて少ない傾向にあるが、学生委員会教職員の働きかけもあり、学生交流会や学生総会の参加率は高く、特に飛鷗祭の開祭式および講演会には、ほぼ全員が参加することができた。

また、2年前より実施している医療短大スポーツ大会は、学生自らの企画であり、積極的に企画運営できた。

**2) 学生間・学年間の交流が図られる。**

6月の医療短大スポーツ大会、9月の3短大スポーツ大会を通して、エネルギーの発散をすることができた。ここには、実習中である3年生も数名ではあるが参加しており、スポーツ大会後の交流会を通して親睦が図られた。また、6月のスポーツ大会は、クラス対抗ではなく学年縦割りのチームにしたことから、学年間の交流をも深めることができた。

**3) 飛鷗祭では学業と連動した企画立案できる。****(1) 近藤先生の講演会について**

昨年度本学創立40周年記念の企画としてシンポジウムを開催したが、今年度もそれに続く企画を入れたいと考え、現代文明論講師でもある近藤卓先生を招いての講演会を企画した。依頼にあたっては、依頼文作成、配信、講演料に対する折衝(近藤先生への講演依頼、謝礼についての検討・支援)、等について、具体的に助言指導した。学生にとっては、外部から先生をお招きしての講演会は初めての企画であったため慣れない点が多かったが、学生の参加者も多く、有意義な講演会となった。



**(2) 広報部会との活動**

今年度から、SNS を活用した広報活動を開始した。活用にあたっては、申請書の提出等への助言や、SNA 活用上への注意に対する学生への周知徹底を図った。

また、パンフレット作成においても、昨年度の振り返りを踏まえて企画段階から関与し、リーフレットタイプのものからパンフレットタイプのものに変更した。コンテンツ(写真等)の提供に手間取ってしまったため、出来上がりが飛鷗祭直前となってしまったが、質・内容ともに良いものができ、内外からも好評であった。

**(3) 各主企画について**

今年度は、特に講堂企画において、いくつか新しい取り組みを行った。ステージ設定の工夫や、レンタルの照明器具や音響設備の導入、講堂内企画の撮影禁止等に対し、学生の希望を踏まえながら、必要時助言や関係部署との折衝等を行った。実施においては、参加学生の協力も得られ、問題なく実施することができ、特にステージの講堂後方への設置は好評であった。レンタル機器の利用については、今年度予算組みされていなかったこともあり、調整が必要であったため、次年度はあらかじめ予算計上しておく必要がある。講堂企画の撮影禁止は、学生の肖像権や個人情報に配慮したものであるが、学生個々の意識も高まり協力を得ることができた。

クラス企画については、日々の学びの発表となるように助言していたが、学生個々が様々な役割を担って多忙であること、またクラス企画の学生代表者とその他のメンバーとの連絡調整が難しかったことなどから、十分な準備ができなかったようであった。

模擬店企画については、2日目の悪天候時も、開催場所の変更等を行うことで、飛鷗祭期間中毎日実施することができた。今年から導入した SNS の広報利用により、変更内容について速やかな告知ができたことも有効であった。

**(4) 会計について**

金銭の取り扱い方法についての助言などしてきたが、今年度不慮の盗難事件が発生した。幸い学生に危害は及ばなかったが、今後の金銭管理に関する学生負担の軽減等、検討の余地がある。

**4) 学生会各委員の役割内容を確認し、組織としての活動記録を残し、次につなげることができ**

る。  
今年度は、4月から学生会組織の編成、組織図・学生会会則・学友会会則の見直しと変更を行った。その結果、飛鷗祭実行委員会の位置づけが明確になり、各委員の仕事内容が明確化できた。各委員の活動は、学生会の書記が記録し、データとして次に引き継ぎできるようにした。

**5) ボランティア活動への関心を高め、積極的に参加できるように支援する。**

本学 MS シートに沿った活動概要

社会連携 III 地域との連携強化

**(1) 学生のボランティア活動の発展****1-1 ボランティア活動参加学生の増加と活動範囲の拡大**

これまで以上に地域との連携を継続し、社会との連携を強めるために、学生のボランティア活動の強化が期待されている。

ボランティア同好会の活動について、2015 年度の実施は以下のものであった。

**① 付属病院の小児病棟のボランティア**

2014 年度までは、6A 病棟のみであったが、2015 年度より 8A 病棟でも活動が可能となった。

**② 秦野精華園との交流**

近隣施設との交流の目的で、2013 年度に飛鷗祭に秦野精華園の利用者の方をご招待し、交流

を開始した。以後、秦野精華園で開催される5月の体育祭ではダンス同好会とボランティア同好会が合同で参加し、ダンスを披露して利用者の方に非常に喜ばれている。他に、夏の納涼祭、秋の文化祭（はばたき祭）に参加している。また、学習ボランティアとして、年間を通じて利用者の国語の学習支援を年間で継続して行った学生もいた。

### ③高齢者施設のボランティア

近隣の高齢者施設の五月（さつき）祭と納涼祭に模擬店補助として参加している。

### ④その他

今年度、近隣の保育園より手洗いの指導を依頼されて、3か所の保育園に数人ずつが出向き、園児が楽しく手洗いができるよう工夫して指導できていた。

その他、近隣の高校生への特別授業（教員による）へのサポートなど、新規の活動がみられた。また、地域に暮らす猫の支援を通して動物愛護の啓蒙活動を主眼とした「猫サークル」などの地域貢献型の新しいサークル活動も動き始めており、ボランティア活動参加学生の増加と活動範囲の拡大が進みつつある。

## 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月15日（水）	① 会議の役割決定 ② 学生委員会活動内容確認 ・学生委員会規定確認 ・学生委員会の目的・目標確認 ③ 報告事項 ・学生交流会のアンケート結果 ・学生会執行委員会、飛鷗祭実行委員会 各組織の位置づけ、役割・委員の確認 ④ 審議事項 ・2015年度の活動方針、年間目標と活動計画、役割分担 ・クラブ・サークル活動について
2	6月10日（水）	① 2015年度学生委員会の目的・目標・活動計画の確認（望月） ② 報告事項 ・医療短大スポーツ大会について ・飛鷗祭の進行状況 ③ 学生会組織編成の確認 ④ その他 新サークルの立ち上げについて
3	10月21日（水）	① 報告事項 ・3短期大学スポーツ大会実施状況と来年度の課題 ・飛鷗祭について準備進捗状況 ② 飛鷗祭に関する今後の指導等について
4	11月25日（水）	① 飛鷗祭の振り返りと次年度への課題 ② 2016年度執行委員会役員選挙について ③ その他（卒業記念アルバム、卒業生記念品、謝恩会）

5	1月22日(金)	① 飛鷗祭の振り返り(学生アンケート結果を踏まえて) ② 2016年度学生会執行委員会役員について 進捗状況
6	2月25日(木)	① 報告事項 ・2016年度執行委員会役員選挙について ・国家試験激励 ・謝恩会の進行状況、 ・卒業記念品・卒業アルバムについて ② 審議事項 ・2016年度 学生交流会について ・2015年度 年間活動の振り返りと今後の課題

#### D 評価・改善

学生会主催の行事への学生の積極的な参加が得られ、大きな問題がなく各行事が実施でき、学生委員会としての役割を果たすことができたと考える。例年2年生の参加が1年生の参加に比べて少ない傾向にあるため、今後も主体的に積極的な参加が得られるよう、学生委員会からのサポートが必要である。

また、学生が自主的に企画運営している医療短大スポーツ大会は、学生間学年間の交流を図る良い機会となっているため、今後も安全に実施できるように全面的に支援する必要がある。

飛鷗祭については、学生にとっては最も大きなイベントであり、教科外活動として大きな意味をもつものである。これらの企画運営のすべての過程を通して、学生のライフスキル能力が育まれていくことから、企画立案から実施までの支援内容は多岐にわたるが、学生の主体性を大切にしつつ、丁寧なサポートが必須である。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

飛鷗祭における企画のうち、特に外部から講師を招いての講演会の開催や、各種企画(クラス企画、模擬店企画、講堂企画)、広報活動等については、外部との折衝や資金を動かすことなど、学生にとっては不慣れなことが多いため、トラブルがないよう注意深く見守り、支援することが必要である。具体的には、まず今年度の内容を踏まえた予算立案を行えるように学生会予算における収入・支出(項目)について見直し、助言し援助していく。

また、MSシートにおける学生委員会の役割としてあげられている社会連携・ボランティア活動の活性化については、地域貢献型サークル活動を活発化するとともに、教職員が行うボランティア活動などを積極的に紹介してもらい学生の参加を募るなど、様々な機会に学生が参加できるように教職員にも協力してもらうことが必要である。また、サークル活動の成果を飛鷗祭で積極的に発表するなど、他の学生の興味関心を高める工夫も必要である。

以上を踏まえ、次年度も学生が課外活動に主体的に参加し責任を持ち役割遂行できるよう、自主性を尊重した上で支援していく。

### (6) 現代文明論委員会

#### A 位置づけ

本委員会は、現代文明論委員会の規程にもとづき、講義の編成、運営を行う。

#### B 活動目標

1. 現代文明論を学ぶ動機づけをするとともに、学生の学習環境を整える。
2. 各回の講師と連絡・調整を行うことで、円滑な授業運営が行える。

3. 講義で紹介された図書を中心とした蔵書を増やし、学生の自己学習の環境を整える。
4. 委員会の活動を通して、現代文明論について教職員に広く関心を持ってもらう。

## C 活動概要

### 1. 活動概要

現代文明論を学ぶ動機づけとして、ガイダンスで現代文明論を学ぶ意味・姿勢、学習の到達目標などを説明した。各回の講義では、講師から現代文明論を学ぶ意味や講義と現代文明論との関連を説明して頂いた。

授業運営は、昨年の方法を踏襲して実施した。各回の講師と事前および当日に打合せを行い、授業の準備・運営を行った。毎回、2名の委員が授業運営を行い学生の出席状況、授業態度や受講用紙の提出状況等を所定の用紙に記録した。委員会では、学生の授業態度や出席状況等について検討を行い、必要時に全体または個別に指導を行った。受講用紙の書き方や課題レポートの書き方について、随時全体にむけて説明した。

講義の中で紹介された本をリクエストして、入荷したものは学生へ掲示で知らせ自己学習に活用できる様にした。

教職員に向けて講義予定が分かるように掲示を行い、講義変更はタイムリーに公開して講義に参加しやすい環境を整えた。

MSシートの中で、社会連携の達成目標「現代文明論の授業公開の検討」を受けて、授業公開について検討した。

### 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月6日(月)	① 諸規定及び運営方法について ② 年間スケジュール ③ 現代文明論Ⅰのガイダンスについて ④ 運営マニュアルなどの検討
2	5月7日(木)	① 現代文明論Ⅰの現状について ② 第15回(まとめ)のグループワークについて ③ 課題レポート採点基準について ④ 現代文明論授業公開の検討
3	8月6日(木)	① 現代文明論Ⅰの成績と出席状況 ② 現代文明論Ⅰ現状とまとめ ③ 現代文明論Ⅱのガイダンスについて
4	10月7日(水)	① 現代文明論Ⅰ授業アンケートについて ② 現代文明論Ⅱの現状について
5	12月22日(火)	① 現代文明論Ⅱの現状について ② 第15回(まとめ)のグループワークについて ③ 2016年度の講師について ④ 2016年度のシラバスについて ⑤ 現代文明論授業公開の検討
6	2016年 2月5日(金)	① 現代文明論Ⅱの成績について ② シラバス等の見直しについて ③ 現代文明論Ⅱのまとめ ④ 現代文明論授業公開の検討

臨時	2月17日(水)	① シラバスの再検討
7	3月2日(水)	① 現代文明論Ⅱ授業アンケートについて ② 年報について ③ 運営マニュアル等の見直し ④ 現代文明論授業公開の検討

#### D 評価・改善

授業運営は、各回の講師と事前および当日に打合せを行うことで滞りなく行うことができた。欠席や受講用紙の未提出が続いた学生は、個別指導を行うことで改善がみられた。後期は、例年飛鳥祭前後に欠席が多いため、後期ガイダンスでスケジュールおよび体調管理の大切さを話した結果、欠席者の増加は見られなかった。

受講用紙の記載内容は、適宜全体に向けて指導を行うことで徐々に改善された。

本科目では、講義を受けて終了ではなく自ら関心をもったテーマについて継続して考える事、様々な視点から物事を考える力を育むことを大切にしている。こうした事を、引き続きガイダンス等で学生に伝えると共に、講義関連図書を増やすことで自ら学ぶ環境を整えていきたい。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

2014年度に作成したMSシートの中で、社会連携の達成目標「現代文明論の授業公開の検討」を受けて、募集方法・授業運営方法・授業公開する上での在校生への影響などを検討した。また、先行して授業公開している他校舎の実施方法について情報収集した。これらの内容を受けて次年度以降、授業公開のためのシステム作りを行う。

### (7) 国際交流委員会

#### A 位置づけ

本学主催のデンマーク看護研修に対する支援を中心に、東海大学主催の海外研修航海及びハワイ語学研修、その他国際交流に関する支援を行う。また、スタディツアーフロムデンマーク（デンマーク研修団の受け入れ）の企画、支援を行う。

#### B 活動目標

1. デンマーク看護研修を国際交流委員会との連携で実施できる。
2. 海外研修航海、ハワイ語学研修について幅広く広報する。
3. 湘南キャンパスとの連携を通して、学生の国際交流の機会を増やす。
4. スタディツアーフロムデンマークの受け入れマニュアルを作成する。

#### C 活動概要

##### 1. 活動概要

##### ①デンマーク看護研修

2015年度第41回デンマーク看護研修は、実習の関係で2日間短縮して、13日間で実施したが、例年通りの目標が達成され、学びの多い研修となった。また、事務職員1名が会計の役割で引率した。

参加学生は1年生のみ16名（うち、男子学生2名）参加であった。日本での病院実習の経験がないため、事前学習に急遽、東海大学医学部付属病院の見学を実施した。他に外国語センターの講師による英会話学習を60分2回実施した。

ヨーロッパ学術センター（以下、TUEC）の職員の都合により、研修後半は通訳及び現地案内を TUEC がツアーガイドに依頼した。デンマークでは交通機関を使用する方法が変更になったが、TUEC の方々が入念な準備をさせていただきスムーズに移動でき問題はなかった。

### ②海外研修航海、ハワイ語学研修等についての広報

2015 年度は、海外研修航海に 4 名（2 年生 4 名）、教養学部人間教養学科 藤巻裕之講師及び東洋学園大学 且祐介教授より、昨年度に引き続きカンボジア研修の誘いがあり 4 名（1 年生 4 名）が参加した。

新入生交流会に 2014 年度の海外研修航海及びカンボジア研修参加学生より、新入生や在學生に自分たちの体験を伝えたいという申し出があった。そこで、デンマーク看護研修も含めて、それぞれの参加学生がパワーポイント等を使用して広報した。また、9 月のガイダンス、オープンキャンパスにおいても同様に参加学生が体験したことや学びを報告する機会を持った。

### ③学生の国際交流の機会を増やす

国際交流課との連携もなく、新しい交流の機会を持つことはできなかった。

### ④スタディツアーフロムデンマークの受け入れマニュアル作成

この研修は 2 年に一度であるため、次の担当者にスムーズに引き継ぎすることが困難であり、マニュアルの作成に着手した。次年度も引き続き検討し、2016 年度の研修会には完成を目指す必要がある。

## 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 3 日（木）	① スタディツアーフロムデンマークの振り返り ② 2015 年度活動目標 ③ 第 41 回デンマーク看護研修
2	5 月 1 日（金）	① デンマーク看護研修について ② スタディツアーフロムデンマークのまとめ
3	6 月 10 日（水）	① デンマーク看護研修について ② 〃 日程について
4	7 月 27 日（月）	① デンマーク看護研修事前学習について ② 〃 日程について ③ 9 月のガイダンスについて
5	9 月 25 日（金）	① デンマーク看護研修の振り返り ② スタディツアーフロムデンマークのマニュアル作成
6	11 月 24 日（水）	① オープンキャンパス（飛鷗祭）でのデンマーク看護研修報告について ② 海外研修航海、カンボジア研修について ③ スタディツアーフロムデンマークのマニュアル作成
7	2016 年 2 月 12 日（金）	① スタディツアーフロムデンマークのマニュアル作成 ② 海外研修航海、カンボジア研修の参加者
8	3 月 11 日（金）	① 年間のまとめ

## D 評価

海外研修航海に参加した学生が人間的に一回り成長し、後輩にも良い影響を与えている。でき

るだけ多くの学生が参加できるよう工夫していく必要がある。これまでは、教員が広報していたが、参加学生の生の声を伝えることにより、刺激となり参加学生も増加していくと考える。したがって、今後も広報は学生も含めて行っていく。また、新入生保護者ガイダンスにおいて海外研修の意義を伝えて、協力を促していく必要がある。

デンマーク看護研修に事務職員が引率することにより、今まで経験則で実施してきた内容が明確になった。今後も引き続き事務職員が引率し、この研修会に関してもマニュアルを作成していく。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

##### a. 国際連携：1. デンマーク看護研修の見直しと充実 1-1 デンマーク看護研修の実施

2015年度のデンマーク看護研修は、実習の関係から2日間短縮したが内容的に問題はなかった。2016年度の1-1デンマーク看護研修の見直しは今年度も実施した。今後も毎年必要な見直しは必要で項目を「デンマーク看護研修の見直しと充実」と修正するとよいのではないかと。

##### b. 国際連携：2. 海外研修参加の拡大 2-1 全研修、毎年一人以上の参加

今年度は、海外研修航海4名、カンボジア研修4名であった。ハワイ語学研修は参加者が無かった。前年度の参加学生が体験を説明することにより効果があるため、2016年度は、達成目標を「海外研修航海、ハワイ語学研修、カンボジア研修に複数人の学生が参加する。」と修正する。そして、2016年度以降毎年、「参加学生が広報に参加し、呼びかける。」と「新入生保護者ガイダンスで保護者に海外研修参加の意義を説明する」を入れる。

### (8) 国家試験対策委員会

#### A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、3年生の指導教員と2年生の指導教員代表で構成し、学生国家試験対策委員、事務室の看護師国家試験担当および図書館等と連携・協働しながら、看護師国家試験に全員が合格することを目指し、学生への支援を計画立案・実施する。

#### B 活動目標

1. 看護師国家試験の全員合格をめざし、国試対策と学習の支援をする。

①本学教職員、学生の国家試験対策委員と連携し、学生各自が計画的に国家試験対策に取り組めるよう支援する。

②学生が、自主的に看護師国家試験の学習に取り組むことができるよう支援する。

③学生が、学習状況や結果を自己認識したうえで、学習が進められるよう支援する。

④学生の力が最大限発揮できるよう、精神面への支援をする。

2. 2年生に対しては、国家試験受験へ向けた継続的な学習を支援する。

#### \*活動方針

- ・大学生としての自覚を持ち、自立を促しながら学習支援を行う。
- ・早い時期から動機づけを行い、レスキューの学生をキャッチし支援していく体制を取る。
- ・数値目標を示し、目標が明確になるよう支援する。

- ・外部の学習も適宜利用する。
- ・夏までに基礎的学習は終了できるように支援する。

## C 活動概要

### 1. 活動概要

第 105 回看護師国家試験受験対象者の全員合格をめざし、学生の国家試験対策委員と連携し、国試対策と学習の支援を行った。

#### ①国家試験への学習の動機づけ

前期と後期の指導教員ガイダンスにおいて、学習を計画的に進めることや模試の結果と傾向を伝えた。国師対策委員長が 3 月末に教員向けの研修を受講しその結果を反映しグループ学習計画と共に個人学習計画表を作成し活用した。

業者によるガイダンスを 2 回設け、内 5 月のガイダンスは国家試験の分析からの傾向と対策について、と共に講義をセットにしたものを大学側の支援を受け実施した（さわ研究所）。12 月には問題文の読み込みと年末から直前に向けての心構えと対策についての講義つきのガイダンスを行った（さわ研究所）。また、前年度卒業生による国家試験の取り組み経験の話聞く機会を設けた。これらの機会を通して、学生の学習への動機づけを高めた。

模擬試験結果から成績不良者にはチームドリカムとして冬の補講後も大学に来て学習するよう環境を整えた。

#### ②模擬試験の実施と過去問題を活用した学習

年度初めに、教員と学生委員で業者模擬試験を検討し、必修問題を 1 回、全問を 3 回（7 月、9 月、12 月）実施することを計画したが、1 回追加（10 月）して合計 4 回（全問）実施した。

模擬試験の結果返送までに時間を要することから、試験毎に終了後に自己採点を実施した。この結果から現状を知ることで学習への意識を高め、振り返り学習の動機づけとした。

初回は第 104 回看護師国家試験問題の試験を 4 月に学内で実施した。この第 104 回を含む過去 5 年間（第 100 回から）の看護師国家試験問題を学生に配布し、グループや個人学習で解答しその結果を提出してもらった。

#### ③補講講義の実施

夏期補講は、7 月末に人体の構造と機能の講義を計画した。大学側の支援を受け業者（さわ研究所）70 分 4 コマ（内分泌・代謝・体液）と二葉先生に呼吸器・循環器・脳神経・消化器（昨年度より 2 コマ増）の 4 コマ、二見先生に薬理学・血液の 2 コマの講義を実施した。冬期補講は、1 月に専門基礎分野・専門分野・統合分野の講義を計画し 40 コマ実施した。

#### ④学生の計画的な学習活動と指導教員の指導体制

学生は 5 月から 12 月までの実習期間は実習グループ毎の学習を中心とした。グループでスケジュールを作成し、実習空き時間の有効活用、過去問題への取り組みを行うよう指導した。グループ毎に担当教員は決めず指導教員が中心となって計画表の提出に伴う指導を行い活動の支援を行った。

統合時実習終了後からは国家試験のための学習を学内でできるよう教室を確保し環境を整えた。

指導教員による全学生の面談を 4～5 月と 12～1 月に実施し、学習計画、学習内容や方法を指導した。また、模擬試験などの結果から、特別に支援を要する学生に対し再度の面接を行い、チームドリカムとして強化を図った。その中でも 7 名が泉先生の個別学習支援を頂いた。



⑤既卒者への対応

事務室を通して補講や模擬試験の日程等の情報を提供した。

⑥2年生の活動

4月に国家試験ガイダンス（教員及び業者）、5月学習ノートの作成について・教本の購入、9月模擬試験（日必修）、2月低学年向け模擬試験を実施した。また後期定期試験終了後に、春休みの国試対策についてのガイダンスと学習への意識付けを行った。

⑦MSシートに沿った活動概要

教育：6. 国家試験対策の強化、6-1 合格率の向上

受験者の100%合格を目指し、個人計画表の活用やグループ学習を進めてきた。昨年度までの有効な方法は踏襲し、新しい方法も取り入れ学習を支援してきた。結果は、89名受験し2名が不合格となり合格率は97.8%であった。全国の合格率（新卒者）の合格率は94.9%であり、また全国の短大の合格率は94.5%であり、平均的には全国レベルよりも上回る結果であった。来年度以降も全員合格を目指し活動していく。

教育：6. 国家試験対策の強化 6-2 大学としての組織体制の支援強化

大学として学習強化のための学内での業者による講座を開催し支援した。また、今後は年間計画の中で実施できるようにしていく。

## 2015年度 13KF生 第105回 国家試験対策委員会年間スケジュール

2015年度実施状況

	実習	模試	ガイダンス	面接	補講	委員会	
4月		第1回模試(学内)		全員面接		*指導教員打ち合わせ	
		4月14日 KN201				①4月7日(合同)	
						②4月21日(合同)	
5月	5月11日～ 7月25日		5月1日さわ研究所				
6月							
7月			第2回模試(業者)7月27日 ①メディカコンクール必修 ②サトラ模試(第104回学内)			夏季補講 7月28日4コマさわ研 究所学内講義 7月29日2コマ 7月30日4コマ	*指導教員打ち合わせ ③7月28日(合同)
		8月	8月9日～16日 入校禁止				
							*指導教員打ち合わせ
9月		第3回模試(業者)9月4日 東京アカデミー(第1回)				④9月2日(合同)	
10月	9月7日～ 11月28日	第4回模試(業者)10月10日 テコム(第2回)					
11月			11月21日 国家試験手続き				
12月		第5回模試(業者)12月1日 Gakken(第3回)	12月22日 ・業者ガイダンス (さわ研究所) ・先輩の話			*指導教員打ち合わせ ⑤12月3日(合同)	
	12月7日～ 12月19日			12月24日～ 全員面接			
1月		第5回模試(業者)1月7日 東京アカデミー(第3回) 町田校			冬季補講 1月8日～ 1月28日 全40コマ	⑥1月20日	
				要強化支援者 面接			
2月	2月14日 第105回 看護師国家試験		2月12日 受験表配布			⑦2月16日(合同)	
3月						*指導教員打ち合わせ 3月10日 引き継ぎ	
	3月25日 結果発表						

## 《目標の評価》

## 委員会目標 1-①について

- ・本学教職員、学生の国家試験対策委員と連携し、学生各自が計画的に国家試験対策に取り組めるよう支援する。
  - 学生の国試対策委員長がうまくリーダーシップを発揮し、報告連絡相談もタイムリーにできたため連携がよく図れたと考える。また、学校側の協力もあり有料での業者ガイダンスを受けさせていただき、そのガイダンスが勉強への動機付けとなった。また、学生も学校側が支援して頂いていることも自覚し取り組んでいた。
  - 今年度の学生は基本的にまじめであり、夏休み・冬休み・実習の合間の時間を学内で集まって学習する姿が多く見受けられた。その真面目な姿勢が業者模擬試験の結果が全国平均よりも上回る結果に繋がったと考える。

## 委員会目標 1-②について

- ・学生が、自主的に看護師国家試験の学習に取り組むことができるよう支援する。
  - 学生がどのように取り組みたいかを確認しながら進めた結果、言われたことだけでなく10月の模試を追加するなど自主的に行動できたと考える。

## 委員会目標 1-③

- ・学生が、学習状況や結果を自己認識したうえで、学習が進められるよう支援する。
  - グループの学習計画表と自己学習計画表を活用することで各自の成績と学習の進捗状況を確認しながら取り組めたのではないかと考える。ただし、アンケートの結果にもあるように個人計画表は修正の余地があり今後の課題とする。

## 委員会目標 1-④について

- ・学生の力が最大限発揮できるよう、精神面への支援をする。
  - 4～5月と12月に全員の面接を行った。面接を行うことで精神面と生活面への指導を行い、それが効果的であった（アンケートの結果からも）。また、学習強化者にはチームを作り学習が効果的に行えるよう支援した結果、第105回看護師国家試験自己採点結果の上昇につながった。

## 委員会目標 2 について

- ・2年生に対しては、日常の学習姿勢が国家試験受験に直結することを強調した学習支援を行った。5月に受験対策用の参考書（2種類）を全員が購入し、教科書と並行して使用し、国家試験勉強にも役立てた。また、ガイダンスでは国家試験対策のスケジュールを2年分示し、2015年度の対策が2016年度に継続されることで、受験の準備が整うことを強調した。
- ・「人体の構造と機能」と「必修問題」に重点を置き、模擬試験の実施やノート提出を求めた。ノート作成は個人差が大きく、学習の積み上げが困難な学生もおり、面接などで支援した。

## 2. 委員会開催状況

## 1) 3年生

回	開催日	議 題
	4月1日	指導教員打ち合わせ
1	4月7日（火） （学生と合同）	① 2015年度活動目標および方針・活動計画、補講、指導体制、役割分担 ② 第104回看護師国家試験の実施（4月14日）
2	4月21日（火） （学生と合同）	① 国家試験対策図書購入について ② 第1回看護師国家試験ガイダンスの実施について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 過去5年間（第99回～第103回）の看護師国家試験問題の活用</li> <li>④ 夏期の補講について</li> <li>⑥ 学生の国家試験対策委員の役割とスローガン</li> <li>⑦ 学習計画について</li> </ul>
3	7月27日（月） （学生と合同）	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習の進捗状況</li> <li>② 9月の模試と追加について</li> <li>③ 夏期休暇の学習への取り組み</li> <li>④ 冬期補講について</li> </ul>
	7月28日（火）	指導教員打ち合わせ
	8月28日（金）	指導教員打ち合わせ
4	9月2日（水） （学生と合同）	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 夏期補講の実施評価</li> <li>② 第1回目模擬試験（メディカコンクール・必修）の結果・傾向</li> <li>③ グループ学習活動の経過報告</li> <li>④ 12月の模試試験業者選定</li> <li>⑤ 冬期の補講計画と講師依頼</li> </ul>
	12月3日（木）	指導教員打ち合わせ
5	12月3日（木） （学生と合同）	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 第2回看護師国家試験ガイダンスの実施に向けて</li> <li>② 学習計画表の提出について、グループ学習活動の経過</li> <li>③ 先輩の話について</li> <li>④ 冬期の補講計画</li> <li>⑤ 今後の学習について</li> <li>⑥ 面接について（学生全員への指導教員面接）</li> <li>⑦ 受験票配布日について</li> <li>⑧ 第105回看護師国家試験受験後について（自己採点と登校）</li> </ul>
6	1月20日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習計画表の結果について</li> <li>② 泉先生による特別講座</li> <li>③ 神社への祈願報告</li> <li>④ 1月7日の模擬試験結果の分析</li> <li>⑤ 面接結果と補講以降の学生支援について</li> <li>⑥ 2月12日の受験表配布と激励会の登校日について</li> </ul>
7	2月16日（火） （学生と合同）	<p>指導教員打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 冬期補講の実施後の評価</li> <li>② 第3回模擬試験について</li> <li>③ 会計について</li> <li>④ 1年間の国家試験対策委員活動の各係の振り返り</li> <li>⑤ 2年生への申し継ぎ</li> </ul>
8	3月3日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 会計について</li> <li>② 第105回看護師国家試験の自己採点結果と分析</li> <li>③ 学生アンケートからの分析</li> <li>④ 国家試験対策委員会活動評価について</li> <li>⑤ 次年度への引き継ぎ事項</li> </ul>
	3月10日（木）	次年度への引継ぎ

## 2) 2年生

回	開催日	議 題
1	4月21日(火) (学生と合同)	① メンバー・リーダーの決定 ② 活動方針の検討
2	4月23日(木) (学生と合同)	① 各系の決定 ② 各系の活動と役割分担について
3	2月19日(金) (学生と合同)	① 3年生の活動状況に対する意見交換 ② 次年度の活動方針について

## D 評価・改善

3年生の国家試験対策については、学生の国家試験対策委員と連携し、国試対策と学習の支援を行った。学生の委員会メンバーも、自己の役割を認識し学生全体への積極的に働きかけるという行動ができていた。特に委員長がリーダーシップを発揮し、係全体の支援も行き、お互いの連携のもと模試や補講等も順調に進行することができた。

国家試験対策に関するアンケートの結果から、12月の国試対策ガイダンスや先輩からの話は、学習への取り組みを具体的に知ることができ学習への動機づけとなっていた。また指導教員の面接は、勉強方法の確認、学習計画の立案へのアドバイスにより学習への意識が高まったとともに、精神的な支援にも繋がっていた。特に、冬期の補講に対する学習への意識は高く、補講後はグループや個人でその日の学習の振り返りを行っていたり、全補講終了後には学習成果を確認するために学生自らが模擬試験を設定し臨む姿勢も見られていた。が、午前中に補講を行い、午後に学生自身で学習したいという意向には添え切れていない部分もあるため今後も検討が必要である。

今年初めて、個人計画表を用いたが活用が十分でない学生もあるが、学習状況や成績状況を視覚的に確認するためには有用であると考え。学生の意見も反映し改善しながら活用していくことが望まれる。

今年度の学生は基本的にはまじめでアドバイスを素直に受け、学内で夏期休暇中や実習の合間にもよく学内で学習に取り組んでいた。その成果として、模試の結果が全国平均よりもやや上回っていたと考える。

しかい毎年の傾向であるが、4月にもガイダンス等で意識づけをしているが、本格的に取り組み始めるのは全臨地実習終了後の12月下旬からであった。早期から計画的・主体的に学習していくための動機づけと、臨地実習と平行しながら学習することを具体的に支援していくことが今後の課題となる。

2年生は国家試験対策への意識は個人差が大きい。支援では、現在の基礎的な知識の学習が、看護を行うことと共に国家試験の受験につながっている自覚を促す支援が重要である。

## E 次年度及び次年度以降に向けて

MSシートの目標の一環として、大学側からの支援を得られたことや学生の国家試験に向けての姿勢とともに効果的であったと考える。

6-1 今後も卒業年次だけの取り組みではなく、低学年から組織的な取り組みを実践していくことが望ましい。

6-2 国試対策に関連した成績データは、これまで単年度で扱い、次年度に引き継ぎはしていない。

しかし、今後は厚生労働省から郵送後の看護師国家試験得点結果も収集し(個人名は伏せたデータ)学内の蓄積データとして引継ぎ、国試対策に活かしていく。

**(9) 就職対策委員会****A 位置づけ**

東海大学医療技術短期大学就職対策委員会規程第 4 条および第 5 条に基づき委員会を開催し本学学生の就職対策を企画し実施する。

**B 活動目標**

本学付属 4 病院の就職に関し、第 1 希望病院への就職内定獲得を支援する。

**C 活動概要****1. 活動概要**

①学生に対する就職説明会の会場および説明内容の変更を要請し充実を図る。

②学生に対し、就職試験の実施内容、「面接試験の受け方を指導する。

**2. 委員会開催状況**

委員会は、開催できなかったが上記の活動概要①および②を委員長企画で立案し、企画調整会議で了承を得て、実施した。

①	6 月 13 日 (土)	就職説明会 (会場：医療短期大学講堂)
②	8 月 6 日 (木)	就職相談会 (J-304 教室)
	8 月 7 日 (金)	就職相談会 (J-304 教室)
	8 月 24 日 (月)	就職相談会 (J-304 教室)

**D 評価 (効果が上がった事項、改善すべき事項)**

①就職説明会については、説明内容の改善が図られ、学生から高い評価が得られた。

②就職試験受験者 86 名の内、61 名 (71%) の学生が就職相談会に参加し、気負うことなく試験に望むことができた、試験に対するクレームもなかった。

③就職採用内定の結果は、最終結果において、8 名の学生が第 2 希望病院に内定された。

**E 次年度及び次年度以降に向けて**

①委員会を開催し、本学より更なる就職説明会の内容の充実を図るよう要望する。

②就職相談会の内容の充実化を図る。

**(10) ハラスメント防止人権委員会****A 位置づけ**

本委員会はハラスメントの防止及び被害者救済に関し必要な事項を定め、本学の学生及び教職員等の修学若しくは就労又は教育、研究における環境の健全化を図り維持することを目的としている。

## B 活動概要

### 1. 活動概要

ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を例年通り設置した。2015 年度の相談委員名については、キャンパスナビに記すとともに学生ガイダンスで伝えた。また、学生ガイダンスの際に、「ハラスメントの加害者にならないために」と「被害にあった場合の対応や相談窓口」についても冊子を用い説明した。

2015 年度全体を通して、学生および職員からの相談はなかった。

### 2. 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

## (11) FD・SD 委員会

### A 位置づけ

FD・SD 委員会の規定に基づき以下の役割を行う。

1. 教育活動支援
2. 研究活動支援
3. その他、教員の関わる活動に関する支援

### B 活動目標

1. FD マップを完成する
2. 教員の教育実践能力の向上のための支援を行う  
(アクティブラーニング、コーチング等の講演会、看護過程授業の情報交換会)
3. 授業アンケートのまとめ、結果の公開を円滑に進める

### C 活動概要

#### 1. 活動概要

##### ①FD マップの作成

FD マップは、2014 年度に検討を開始し委員会で原案を作成した。2014 年の研究・教育活動報告会で意見交換の機会を持ち、以降、1 年間を通じて委員会で検討し、2015 年度の授業実践報告会及び研究・教育活動報告会において、全体討議を行った。FD マップを活用しながら、自己の教育に必要な能力を確認し、大学全体として FD 活動を活性化させるための指針とすることを意見交換の中で確認できた。今後は、完成したマップを活用した結果を評価していく必要がある。

FDマップ (東海大学医療技術短期大学)		このFDマップは本学教員が、教員としての必要な能力を確認しながら、自己研鑽に努めることを目的として作成した。併せて、大学として組織的、継続的なFD活動を進めるための指針とすることを目的としている。		
必要な能力	レベル*	レベルI	レベルII	
教育実践能力	建学の精神、教育目標を基にしたカリキュラムに関する理解	建学の精神、教育目標等について説明できる カリキュラム全体から担当領域・担当科目の位置づけを理解し、役割が遂行できる	カリキュラム全体を把握して、課題を見いだし、改善のための方法を考えることができる	レベルIII 建学の精神に沿った、カリキュラムの評価と構築ができる
	教育観・看護観	実践を踏まえて、自らの教育観・看護観を言語化し、振り返ることができる	教育観・看護観を振り返りながら、自らの教育実践の質の向上を目指すことができる	本学の教育の質向上に向けて、他の教員に助言できる
	教育倫理	教育実践における倫理について理解でき、実践できる	教育実践における倫理的行動のモデルとなれる	本学における倫理的な環境づくりについて課題を見出し、改善できる
	授業の運営・評価	分担された講義の位置づけが理解でき、講義・演習の運営ができる アドバイスを受けながら、シラバスが書ける 授業の目的に沿った授業方法が選択できる 指導案に基づいた授業運営ができる 授業評価の方法が理解できる	科目責任者として担当科目のシラバスが書ける 他の講義・演習との関連から、自らの授業の在り方や方法について考え改善できる 授業評価の方法についての課題を見出し、改善できる	講義・演習の運営、評価について他の教員に助言できる
学生支援	実習目的・方法に沿った指導ができる 実習指導体制を整えることができる	学生の個別性を把握し、実習目標との関連を考えながら指導できる 助言を受けながら、指導困難な学生の指導ができる 最新の知識や技術の獲得に向けて努力できる 新人教員に対してアドバイスが与えられる 授業目標や内容に沿った教材の改善や新たな開発ができる	教育目標との関連を考慮しながら、実習施設の選択、調整ができる 実習環境の調整や改善ができる 学生と教員の関係づくり等について他の教員の支援ができる 指導困難学生の指導ができ、他の教員に助言できる	
組織と個人の理解	学生の傾向及び学生の抱えている問題について理解できる 個々の学生の状況に合わせた支援ができる 必要時、学生指導に関して助言を求められることができる	学生支援の体制、教員の役割、責任範囲が理解できる 学生及び保護者に対する支援ができる	学生及び保護者に対する支援方法等について他の教員に助言できる 学生支援の体制について、課題を見出し、改善できる	
組織の一員としての能力	本学の歴史、建学の精神について理解できる 本学の組織、運営について理解でき、自らの役割が遂行できる	本学の歴史、建学の精神を語る事ができる 大学組織全体から自己の位置づけがわかり、行動できる	本学の歴史、建学の精神を語る事ができ、その精神を継承する環境を整えることができる 本学の将来への課題を見出し、提言できる 人材育成の視点から他の教員の支援ができる	
研究能力	リスクマネジメント	災害時や日常の危機管理行動について理解でき、役割行動がとられる	災害時や日常の危機管理行動、役割行動について評価、改善できる 災害時や日常の危機管理行動について、学生に指導できる	災害時や危機管理行動に関して、組織のマニュアルに沿って、他の教員に指導できる 災害時や日常生活の危機管理に関して、大学組織として評価し、改善できる
	社会貢献	看護の社会的意義、社会情勢に関する関心が持てる	大学の一員として社会貢献活動ができる	大学としての新たな社会貢献活動を提案できる 社会動向を把握し、看護が果たす役割について他の教員にアドバイスできる 本学が社会貢献できる環境を整えることができる
	研究能力	研究方法に関して理解できる 教育活動の中で、課題を見出すことができる	自己のテーマに沿った論文作成、発表が計画的に行える 他部門との共同研究に参加できる 競争的研究費用獲得への関心が持てる	本学全体の研究の質と量の向上を目指すことができる 他部門との共同研究を組織できる 自ら競争的研究費用獲得をめざし、他の教員にも助言できる

2016.3.31 FD・SD委員会

\* レベルの目安及び考え方：レベルIは教員経験が3年未満くらい、レベルIIは3年以上10年未満くらい、レベルIIIは10年以上。ただし、必要な能力によって自分がどのレベルにあるのかを確認して、自己のレベルアップを目指す指針とする。



## ②教員の教育実践能力の向上のための支援を行う

## a. 看護過程情報交換会

8月11日(火)に看護学の全領域の代表者が、看護過程の指導内容や指導方法について発表し、意見交換を行った。発表者は以下のとおりである。

- 基礎看護学：蔵本 文乃 准教授
- 成人看護学：阿部 ケエ子 准教授
- 老年看護学：鈴木 陽子 教授
- 在宅看護論：中田 芳子 教授
- 精神看護学：大貫 美奈子 講師
- 小児看護学：湊田 明子 准教授
- 母性看護学：望月 好子 教授

会後のアンケート結果では、初めての試みであったが相互の領域の教育内容を知ることができたと好評であった。「今後もFD・SD委員会でも検討を続けてほしい」という意見があり、基本となる理論についての検討や実習指導での看護過程の活用方法についての情報交換などを引き続きFD・SD委員会で企画していく必要がある。

## b. 研修会

9月4日(金)にオフィスヒューマンブリッジの井手芳美先生の『看護教育実践とコーチング～実習指導を中心に～』というテーマで研修会を開催した。参加者は、14名であった。ペアワークやグループワークを行う中での実習指導に生かせるような実践的な内容で、参加者には好評であった。

2016年2月23日(火)放送大学学園、准教授 戸ヶ里泰典先生をお迎えして『量的研究の基礎』というテーマで、統計の基礎の基礎となる内容をわかりやすく丁寧に講義していただいた。

## c. 授業実践報告会及び研究・教育活動報告会

2016年3月3日(木)に実施した。今年度の2014年度のティーチングオブザイヤーの二葉千鶴講師は、8月のオープンキャンパスにおいて模擬授業を実施したため、教職員対象にはこの時期の研究・教育活動報告会と併せて企画した。参加者は、27名であった。内容は以下のとおりである。

時間	項目	テーマ	場所	発表者
10:05～11:05	授業実践報告	人体の構造	KN201 教室	二葉 千鶴
11:05～11:35	質疑応答		〃	
11:35～12:35	昼食	—	会議室	—
12:35～13:00	報告 1	ホームホスピスの活動	KN201 教室	蔵本 文乃
13:00～13:25	報告 2	原点に戻る姿勢の定着 ～大学院修了後の変化～	〃	阿部 ケエ子
13:25～13:50	報告 3	医療短大図書館と利用者支援	〃	大島 美知子
13:50～14:15	報告 4	看護技術教育における自作教材作成とその学習効果	〃	岩屋 裕美
14:15～14:25	休憩	—	—	—
14:25～14:50	研修報告	パフォーマンス評価 初年次教育	KN201 教室	高本 征子 中田 芳子
14:50～15:20	全体討議	FD マップについて		進行：中田

(敬称略)

## ③授業アンケートの概要作成

2015 年度から新しい授業アンケートを使用し、その概要を FD・SD 委員会で作成することになった。2015 年度前期は試行期間だったためカリキュラム委員会との業者、カリキュラム委員会と FD・SD 委員会の連携がスムーズではなかった。今後、2015 年度全体の結果について概要をまとめ、次年度の課題を FD・SD 委員会としてまとめていく必要がある。

## ④FD・SD 委員会としての活動

2015 年度より、新たに事務職員及び図書館員を交えて FD・SD 委員会として活動を開始した。委員会の中に事務職員を 1 名加え、東海大学の事務職員の研修体系についての報告も行った。

## ⑤その他

## ・外部研修会への参加

10 月 3 日 第 14 回関西大学 FD フォーラム・大学教育課程研究会参加、高本征子助教

12 月 1 日 東海大学健康科学部 FD 研修会「初年次教育の展開に向けて」参加、中田芳子教授

2016 年 3 月 5 日～6 日 大学コンソーシアム京都 第 21 回 FD フォーラム参加、萱嶋美子講師

- ・神奈川県保健福祉大学看護実践教育センターの教員養成課程の実習生を 1 名受け入れ、大貫美奈子講師が指導を担当した。その際、関係する領域の教員も模擬授業等に参加し、授業作りについて考えるとなった。

## ⑥MS シートに沿った活動概要

## a. 教育：1. 主体的な学習姿勢の強化、1-4 アクティブラーニングの学習・活用

9 月には『看護教育実践とコーチング～実習指導を中心に～』というテーマでワークショップを開催した。

## b. 教育：2. 教職員の教育能力の向上 2-1 教員の FD マップの完成

2014 年度より 2 年間かけて、FD マップを完成させた。今後このマップを活用して、教員一人ひとりが必要な能力の向上を目指していけるよう FD 手帳の活用について取り組む必要がある。

2-4 事務職員の SD 活動の検討及び管理・支援体制 5. 職員の能力開発 (SD) の実施

5-1 FD・SD 委員会の設置

2015 年度より、FD・SD 委員会として活動を開始した。研修会等にも教職員全員の参加を呼びかけ、大学全体で教育の質を向上させる活動が進み始めている。

## c. 教育：3. 授業評価 (アンケート) を軸とした PDCA サイクルの活性化、

3-1 授業アンケートの結果の公開

3-2 授業アンケートの結果を活用した授業改善 計画立案

2014 年度に改善したアンケートを学生の協力を得て 2015 年度に実施し、回収率も向上した。カリキュラム委員会と連携しながら、FD・SD 委員会では、アンケート結果を授業改善に活かせるような企画を検討していく必要がある。

## d. 研究：1-1 各自の自主的な計画への取り組みの推進

FD・SD 委員会としては、今年度「量的研究の基礎」の研修会を開催した。また、研究・授業報告会において、研究報告を行っている。

## 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 16 日 (火)	① 2015 年度活動目標 ② 2015 年度活動内容、日程

		③ FD マップについて
2	6月24日(水)	① 今年度の活動予定 ② 9月の講演会
3	7月22日(月)	① 看護過程情報交換会 ② FD マップについて ③ 外部の研修会
4	9月14日(月)	① 9月の研修会の振り返り ② 看護過程情報交換会振り返り
5	12月2日(水)	① 3月の授業・研究報告会について ② 研究の研修会の講師について
6	2016年 1月27日(水)	① 2月の研究に関する研修会について ② 3月の授業・研究報告会について
7	2月24日(水)	① 3月の授業・研究報告会について ② 2月の研究に関する研修会の振り返り ③ FD マップについて
8	3月11日(木)	① 3月の授業・研究報告会の振り返り ② 年間のまとめ

#### D 評価

FD・SD委員会として新たな活動を開始し、教職員が一体となって教育の質の向上を目指すという機運が高まった。

今後は、授業アンケートに関しては、カリキュラム委員会と連携しながら、授業改善のPDCAサイクルを教員が意識できるような取り組みを行っていく必要がある。研究力の向上に関しては、総合看護研究施設との棲み分けと連携を図りながら進めていく必要がある。今後は、研究や授業改善について奨励するような体制づくりが必要と考える。

次年度は3ヵ年計画が終了するので、3年間の評価をしながら、次の活動について考えていく必要がある。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

- a. 教育：1. 主体的な学習姿勢の強化、1-4 アクティブラーニングの学習・活用に関しては、2016年度以降も教育力の向上のために毎年研修会を入れていく。2016年度に関しては1-3初年次教育の検討との関連から、研修会を計画する。
- b. 教育：2. 教職員の教育能力の向上 2-2 教員のFD手帳の検討・講演会の実施は予定通り行い、2017年度からの導入を目指す。  
2016年度に「3年間のFD・SD活動を評価及び今後3年間の活動計画を作成する」を挿入する。
- c. 教育：2. 教職員の教育能力の向上 2-3 新任教員の支援対策の検討は、予定通りとするが、2-4 新任教員短期研修に関しては、2017年度に検討する。
- d. 研究：FD・SD委員会主催で、2015年度は「量的研究」の講演会を実施したので、追加する。2016年度以降も研究に関する研修会を毎年計画に入れる。2016年にFD・SD委員会としての「研究奨励制度(仮称)を検討」、2017年度から「研究奨励制度(仮称)の実施」を追加する。
- e. 管理・支援体制：5. 職員の能力開発(SD)の実施 2015年度5-1FD・SD委員会の設置、とあるが、2015年度FD・SD委員会といてかつどうしているのので、この項目は削除

し、教育：2. 教職員の教育能力の強化に合併する。

## (12) 倫理委員会

### A 位置づけ・役割

倫理委員会は、東海大学医療技術短期大学の教職員が行う研究について「東海大学教育及び研究に携わる者の行動指針」「看護者の倫理綱領（日本看護協会）」「看護研究のための倫理指針（国際看護師協会）」「ヘルシンキ宣言」並びに関連する法令等に照らして、その倫理に関する事項を審議し、研究を適正に実施することを目的とする。

### B 活動目標

#### 1. 活動目標

公正・平等な倫理審査を行う。

#### 2. 活動計画

①新倫理審査指針に基づく、倫理審査内容について検討する。

②東海大学医療技術短期大学研究指針、同倫理委員会規定の見直しを行う。

### C 活動概要

#### 1. 活動概要

##### ①倫理審査の状況

2015年度の初回申請6件、再申請4件であった。審査結果の内訳は、「可（付帯事項有）1件」、再審査での「可（付帯事項有）4件」、述べ10件であった。3月に申請された者については、2016年度4月に継続審議していく。

今年度の活動目標を「公正・平等な倫理審査」として、申請者の研究の意志を十分尊重し、倫理審査の場での話し合いを密にしながら行い、審査結果理由をできるだけ具体的に記載するように配慮した。

##### ②新倫理審査指針に基づく、倫理審査内容について検討する。

倫理審査をする立場の委員の研修会を三上礼子先生（東海大学医学部基盤診療学系 臨床薬理学講師、東海大学医学部附属病院治験・臨床研究管理部 臨床研究事務室 室長）をお招きして6月6日に実施した。新倫理審査指針に基づき、本学で申請されそうな研究を想定して、質問形式で行ったことにより、倫理委員としての姿勢についても学ぶことができた。

その後、三上先生からの学びを伝達する形で、総合看護研究施設の研究交流会として7月11日に開催した。具体的な質問もあり、2015年度の倫理委員会の方針を伝える場ともなった。

##### ③東海大学医療技術短期大学研究指針、同倫理委員会規程の見直しを行う。

東海大学医療技術短期大学の倫理委員会規定、倫理申請の手引きについて1年間かけて検討した。その結果、新しく「研究倫理委員会」とする等の改正を行い、新规定及び申請の手引きは、2016年度から改訂版を使用する。

なお、新研究倫理委員会規定には、事務職員の配置を明記し、「倫理申請の手引き」には事務処理の役割が明確になるよう改正した。

## ④その他

## a. 教職員への倫理教育

2016年2月25日教職員を対象に日本学術振興会の「科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-」テキスト版と東海大学での講演会のDVDを視聴する倫理教育の場を設けた。参加者は「研究倫理に関する誓約書」を提出することによって、本学の倫理申請が可能となり、倫理申請用紙にもこの誓約書の提出の有無を義務づけることとした。

## 2. 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月8日(水)	① 2015年度委員会の活動目標検討 ② 2015年度委員会開催日について ③ 倫理委員会研修会に開催について
2	5月6日(水)	① 倫理委員会研修会に開催について
3	6月3日(水)	① 倫理審査 初回申請1件 ② 倫理委員会研修会について
4	7月1日(水)	① 倫理審査 初回申請1件、再申請1件
5	9月2日(水)	① 倫理審査 再申請1件 ② 総合看護研究施設主催の倫理に関する研究交流会の振り返り ③ 「倫理審査の手引き」の改正について
6	10月7日(水)	① 東海大学研究倫理教育について ② 「倫理審査の手引き」の改正について ③ 東海大学医療技術短期大学倫理委員会規定の見直し
7	11月12日(水)	① 倫理審査 初回申請1件 ② 本学教職員の倫理教育について ③ 「倫理審査の手引き」及び東海大学医療技術短期大学倫理委員会規定の見直しについて
8	12月2日(水)	① 本学教職員の倫理教育について ② 東海大学医療技術短期大学倫理委員会規定の改正について
9	2月3日(水)	① 倫理審査 初回申請1件 ② 本学教職員の倫理教育について ③ 「倫理審査の手引き」及び東海大学医療技術短期大学倫理委員会規定の改正について
10	3月4日(水)	① 倫理審査 初回申請2件、再申請1件 ② 本学教職員の倫理教育の振り返り ③ 「倫理審査の手引き」の申請書類等の改正

## D 評価

2015年度は、これまでと比較すると申請数が増加した。この要因として、倫理に関する研修会を設けたこと、倫理審査の際の委員の姿勢の刷新が影響していると考えられる。審査では、申請者の意図を十二分に汲み取り、結果も「倫理に関する事項」と「その他」と区別するようにした。「その他」には、直接倫理に関係ない研究計画の内容に含まれることや調査用紙の文言等を整理し記載している。今後、教職員が臆することな申請できるよう委員会としてさらに検討していく必要がある。

倫理研修に関しては、教職員の要望を把握しながら、年に1回程度は開催し、意識付けを行っ

ていく必要がある。その際、総合看護研究施設との連携及び役割分担が必要である。

東海看護研究会研究委員会との連携で、本学においても少しずつ共同研究が増加傾向にある。共同研究の進行状況を把握し、推進することも必要と考える。また、共同研究が増加してくると付属病院の倫理審査委員会との重複等の問題が生じるので、次年度はこの部分に関して、委員会としての対応を検討していく必要がある。

#### E 次年度及び次年度以降に向けて

MS シートに倫理委員会が担当する項目が記載されていない。研究：1. 研究活動の活性化に関しては、倫理委員会の関与が欠かせないと考える。2016 年度には、「教職員に対する倫理研修の実施」を追加する。また、倫理委員として研修も毎年計画していく。

研究：2. 臨床施設とも共同研究の推進の 2016 年度以降毎年「東海看護研究会研究委員会を通じて共同研究が複数取り組まれる」を入れる。併せて 2016 年度に「共同研究を実施していく上で付属病院倫理審査との課題と対処について検討」を追加する。

### (13) 研究活動の不正防止委員会

#### A 位置づけ

本委員会は、本学における研究活動に係わる不正防止と研究費及び競争的資金等の運営・管理を適正に行うために、設置され、次の役割を担っている。

1. 学内での研究活動の不正防止に関する啓発
2. 学内での研究活動の不正防止対策に関する検討及び実施
3. 学内での研究活動の不正に関する調査委員会の設置
4. 学内での研究活動に関する不正告発相談窓口の設置

#### B 活動概要

##### 1. 活動概要

研究活動の不正事項がなかったため、特別な活動は行わなかった。

##### 2. 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

### (14) 予算委員会

#### A 位置づけ

東海大学医療技術短期大学予算委員会規程に基づき、予算編成、執行に関し、教育環境の向上を図る。

#### B 活動目標

次年度予算編成にあたり、各領域より申請・要望される設備、機器、備品、用品等の修繕、購入等の内容を精査し、予算に取り込む優先順位等を審議決定する。

#### C 活動概要

2016 年度予算編成時に申請、要望書を取りまとめ審議決定した。

#### D 評価（効果が上がった事項、改善すべき事項）

申請・要望の決定の透明性が図られた。

- E 次年度及び次年度以降に向けて  
教育環境の向上をめざし、申請・要望内容の充実化を図るため要望書等を検討する。

## (15) 省エネルギー推進委員会

### A 位置づけ

本委員会は、本学の省エネルギー対策を推進するための取組方針及び目標等を策定することを目的とする。

### B 活動概要

#### 1. 活動概要

省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全について、冷暖房の温度設定、ゴミの分別収集等学内において学生、教職員に対して掲示等で周知し、配慮を呼び掛けた。

#### 2. 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。